

MLA48

NEWS
LETTER

2022年6月26日
No. 228



143 Members
115(JA), 28(DX)

MLA48 プロジェクト

6月度合同ミーティング(MLA48 通算第185回)

6月25日(土), **MLA48プロジェクト**と**JH1YMC 横浜みどりクラブ**のオンラインミーティングを開催。プチ講演は**JR1OAO中島さん**から「M/UHF型コネクタのハンダ付け」の指南で盛り上がりました。

少々太い8D-SFAでは
いよいよ半田付け



MP部分を差し込んで、芯線の余剰部分はニッパでカット。
同軸部分をバイス等で固定して芯線を半田付け。熱いうちにフック等々をウエスで拭き取る。
M部分をコデと少量のハンダで温める。(調整付きコデなら温度を上げて)M部分がハンダの溶ける温度に上るまでコデは動かさない。

半田付けは相手との間に半田の合金を作ると言う事。銀メッキ品を使う時は天ぷらに注意!(銀と半田は仲良しです)
熱容量の大きい(温まりにくい)所に半田コデを当てる。少量のハンダで熱伝導を助ける。コデはむやみに動かさない。

穴からハンダを流し込む。反対側の穴からも流し込む。
穴を塞ぐ場合は少し冷めてから追加半田する。
固定ネジ部分を戻して完成。



JF1VNR 戸越さんからは「**JH1YMC**のサロン局のリモート運用時3時間以内での駆けつけ」について、関東総通局からの回答が報告されました。

また**JA9BQE/1 橋場さん**からは「PATをD-PATへ改造する方法」の報告で、詳細は次回のミーティングへ。

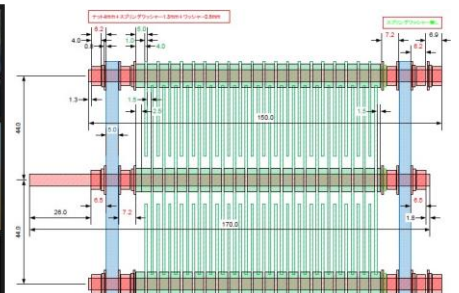
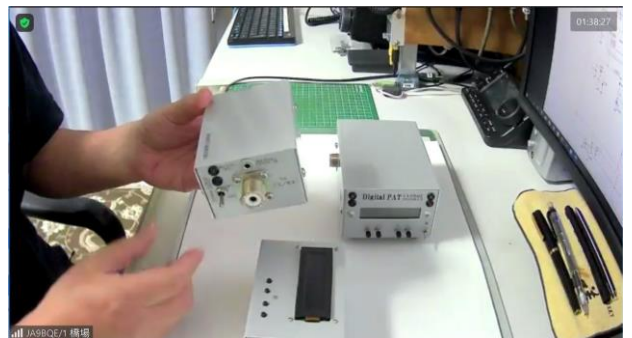
JG1CCL内田さんからは、**BX6ABCヘンリーさん**に発注したバタフライバリコンの、ローター、ステーター、スペーサーが出荷されるとのこと。ネジ類はモノタロウで調達予定。ポリカのフレームと穴開けは準備が大変。来月23日の第108回

社団局におけるインターネットを使用した遠隔運用における送信所の監視について

5月のみどりクラブリモートミーティングにて、確認事項になった、「社団局におけるインターネットを使用した遠隔運用における送信所の監視について」ですが、関東総通局のアマチュア無線担当の方に確認したところ、**社団局構成員が、3時間以内に駆けつたて、対応できれば良いとの回答**でした。

もしそのような事態が発生した場合は、JH1YMC構成員である「みどりクラブリモート運用担当 JF1VNR 戸越俊郎」まで、直前まで通信していた周波数、送信電力、通信モードを連絡をお願いします。(携帯電話等)

JF1VNR局の通信設備は、常時アンテナが撤去されていますが、ベランダ内にLWアンテナの残骸が残っており、JH1YMC固定局からの送信波は、Sメータの振れで5から8検出できますので、停波できていないか確認できます。その後自宅から移動すれば、1時間以内に送信所の電源ブレーカを遮断できます。



アンテナ製作プロジェクトはリアル開催で「バタフライバリコン製作教室」です。

DE JG1CCL & JG1UNE

